

## 小児保健（に携わる）人と「つなぎ」の重要性

公益社団法人 沖縄県小児保健協会  
副会長 宮 城 雅 也

新しく公益社団法人となった沖縄県小児保健協会は、社会に対して利益をもたらすことが役割となり、責任が一層に重くなりました。沖縄県小児保健協会は、もうすぐ40年を向かえようとしています。この40年間の社会変化は著しく、小児保健も変化が求められています。

IT化が急激に進む社会では、膨大な情報が溢れてきます。情報は、昔に比べて容易に得ることができるため、専門性のあり方が問われてきています。かつて重要視されてきた膨大な情報が、現実的かつ有用に活用できなくては、意味がありません。情報を活用できる力を現代社会は求めていると思います。それには、多くの情報の中から必要なものを統合して、活用できるものにしていくことが必要とされています。

情報が溢れる社会の中で、小児保健の役割を再考する時期になっています。子供達が成長して成人になる過程での必要なものに、保健、医療、福祉、教育があります。その中で、保健を除く医療、福祉、教育の分野は、専門的で役割はわかりやすくなっています。しかし保健は、これら全ての分野に関わっており、全ての分野を理解しなくてはなりません。そしてこれらをつないでいく「つなぎの専門家」と言ってもいいのではないのでしょうか。

それは料理の世界に似ております。素材を十分に理解し、それぞれの素材のよいところを最大に引出したら、美味しい料理となります。逆にどんなに材料がよくても、実際に料理方法を間違えてしまうと美味しいものは作れません。小児保健も同じで、医療、福祉、教育を理解し、うまく繋ぐことができれば、子供達一人一人の子育ち環境が整い、子供達の成長の可能性を最大限に引き出せることとなります。料理人は、美味しい料理を提供すると料理人が直接評価されますが、小児保健（に携わる）人が頑張っても、どんなに素晴らしい子育ちの環境を提供しても、小児保健人が直接評価されることはあまりありません。直接関わっている医療、福祉、教育関係者に評価がいくと思います。でも小児保健人は、子供達とその家族が満足して笑顔で成長していく姿をみて、幸せと感じる人が多いと思います。

近年、医療、福祉、教育のそれぞれの分野の進歩は、目を見張るものがありますが、各分野単独では限界があります。その限界を超えていくには、お互いの連携が求められます。しかし社会はまだまだ「つなぎ」の重要性を認識していません。評価がとても難しい上に、理解しにくいからです。しかし「つなぎ」の重要性が認識されてくるのが、情報の溢れる現代社会には、最も求められます。「つなぎ」の難しさは、小児保健人が各分野に精通しなければならないことです。医療、福祉、教育の全てに精通することは本当に大変な作業です。でもうまく「つなぎ」ができると、大きな進歩があり、子供達の可能性が大きく開けてきます。それを無二の喜びとしている小児保健人は、評価されることは少ないかもしれませんが、社会が理解してくれるまで、地道に頑張らしましょう。